

# 経済・金融フラッシュ

No.07-080 2007/10/04

## 米9月ISM指数は、製造業・非製造業とも下落を継続

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail:doi\_hara@nli-research.co.jp

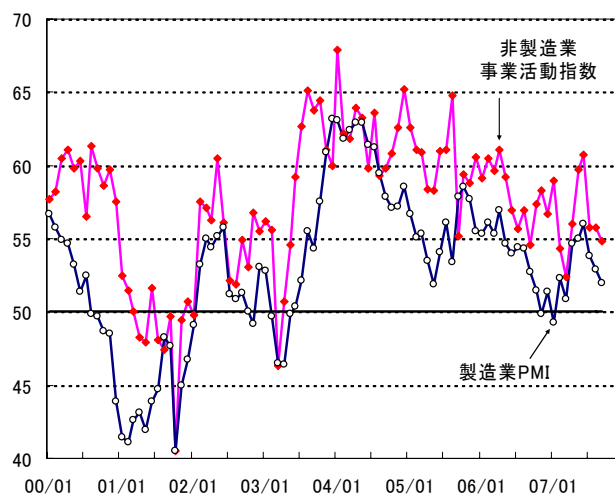
### 1、9月ISM指数は製造業・非製造業とも低下

企業のセンチメントを示すISM指数は、10月1日発表の9月製造業指数（PMI）が52.0と、3ヵ月連続での低下（8月は52.9）となった。市場予想（52.5程度）をやや下回り、3月（50.9）以来、6ヵ月ぶりの低水準となる。同指数は本年1月に49.3と製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる50を下回ったものの、その後6月には56.0まで回復し、再び低下の動きを続けている。ただし、2月以降は7ヵ月連続で50を上回っており、製造業の拡大がなお持続していることを示している。

一方、3日に発表された9月のISM非製造業事業活動指数は54.8と8月（55.8）を下回ったが、市場予想とほぼ同じだった。水準としては、製造業指数と同様に、3月52.4以来6ヵ月ぶりの低水準となる。

9月18日開催のFOMCでは、8月の金融市場混乱の実体経済への波及防止を目的に0.5%の利下げが実施されるなど、サブプライム問題の拡大による実体経済への影響が注目されている。9月ISM指数に見られる企業のセンチメントは、製造業・非製造業とも低下推移を辿っているが、年初に落ち込んだ水準は、なお、上回っており、急に失速する状況を呈しているわけではない。ただし、住宅市場は一段の冷え込みを強めており、今後、消費を中心に実体経済への影響が強まると予想される。消費に近い非製造業指数の動きにより注目しておきたい。

(図表1) ISM指数の推移



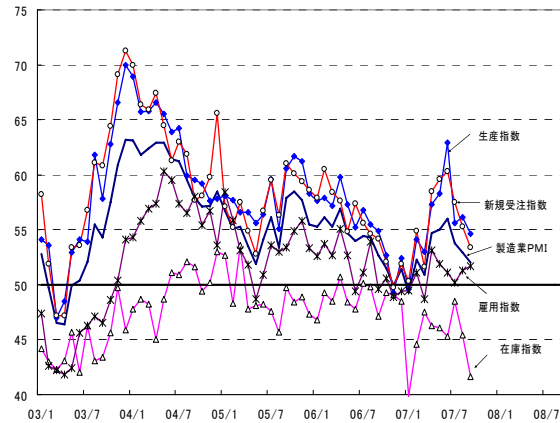
(資料) Institute for Supply Management

(各指数の内訳)

## 2、ISM製造業指数では、生産・新規受注指数が下落

ISM製造業指数のうち、各主要指数別に9月の動きを見ると、新規受注指数が53.4(前月55.3)、生産指数が54.6(前月56.1)、在庫指数が41.6(前月45.4)、等と低下し製造業指数(PMI)を押し下げている。半面、雇用指数が51.7(前月51.3)と若干ながら2ヵ月連続の上昇となった。雇用指数は上昇したものの、生産・新規受注・在庫等の主要指数が低下を見せ、全体としては軟調傾向と言える。特に、新規受注指数は3ヵ月連続で低下幅も比較的大きく、先行き不透明感の強い状況には変りはない。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移

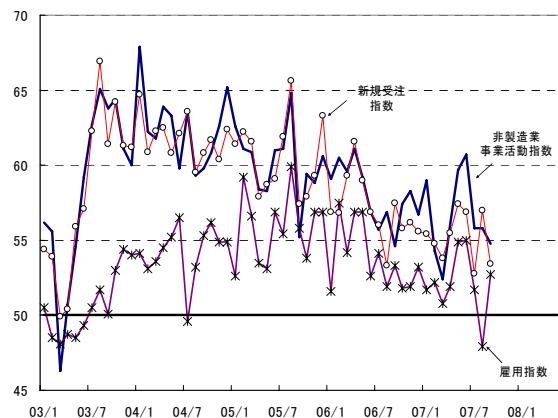


(資料) Institute for Supply Management

## 3、非製造業では新規受注・在庫指数低下の一方、雇用指数が上昇

ISM非製造業指数のうち、9月の事業活動指数以外の動きを見ると、新規受注が53.4(前月57.0)、在庫指数50.0(前月57.0)や新規輸出受注50.0(前月53.5)等、多くの指数が低下を見せた。半面、雇用指数が52.7(前月47.9)、仕入れ価格66.1(前月58.6)、等が上昇した。特に雇用指数は先月2ヵ月連月の低下で50を割り込み2002年12月以来の低水準となったが、その直後に発表された雇用統計が4年ぶりのマイナス(サービス業では6万人増となったものの約2年ぶりの小幅増に留まった)となったこともあり、5日発表の雇用統計(市場予想は10万人増に回復)が注目されている。

(図表3) ISM各非製造業指数の推移



(資料) Institute for Supply Management

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)